東北は震災の影響が心疾患にも

心臓手術の青森1位は、青森市民病院だ。同院は岩手医科大学病院、仙台厚生病院と並んで、東北地方でも心臓手術数が多い。青森市内、むつ、八戸、三沢など東部、南部地域から患者が集まる。心臓血管外科部長の高橋賢二医師は、こう話す。

「青森県はもともと塩分の摂取が多く、高血圧など生活習慣病が多い傾向にあります。高齢化が進むにつれて、冠動脈の詰まり以外にも弁膜症や大動脈疾患など、ほかの心臓病を併発する患者さんもさらに増えると思います」

最近はカテーテル（細管）を使った冠動脈の内科的治療が増えたため、訪れる患者は心カテーテル治療がむずかしい症例や、複数の病気を持ち合わせた患者が増えているという。ただし、同院の2010年の手術数は242例だったが、11年は188例に減少した。高橋医師は理由をこう説明する。

「東日本大震災の影響です。停電などの影響で社会基盤が停滞し、通常の予定手術ができない時期がしばらくありました。東北の病院はどこも同じような状況だったと思います」

さらに震災によるストレスの影響で、心筋梗塞の人が増えるのではないかと高橋医師は懸念する。

「高血圧の人や、胸の痛みや息苦しさなどの自覚症状がある人は、定期的に検査を受けてほしい。もし、手術が必要な場合には、循環器内科の医師が推薦してくれる外科医の手術を受けてください」

心カテーテル治療の宮城1位は仙台厚生病院だ。東北地方でも随一の治療数で、全国的にも心臓病治療の主力病院だ。循環器内科主任部長の井上直人医師はこう話す。

「当院は心カテーテル治療では高い評価をいただけるようになりました。今後の目標は、心臓の血管以外にも治療の対象を広げていくことです。従来、外科の領域である心房中隔欠損症という病気に対するカテーテルによる閉鎖術、大動脈弁のバルーンによる拡張術といった治療です。なかでも足の細い血管が詰まる閉塞性動脈硬化症などの治療に力を入れていきます。高齢化が進むと動脈硬化が進み、全身の血管が詰まる可能性が高まります」

東日本大震災の影響による心筋梗塞の増加が懸念されているが、現在のところそれを示すデータは存在しないという。ただし「将来的にはその可能性は否定できない」（井上医師）という。同科は医師が23人在籍し、そのうち12～13人は単独で治療にあたれる。若手医師の教育にも力を入れているという。

「今後は、外科と内科の連携で、あらゆる心臓病について最高の医療を提供できることを目指します」（同）

心筋焼灼術の北海道1位の北光記念病院は、院長の櫻井正之医師が北海道大学病院循環器内科助教授時代に不整脈部門で心筋焼灼術を実施していたのに端を発する。大学の不整脈部門が独立したような形で開院したため、その信頼度で札幌市内のみならず道内全域から不整脈の患者が訪れる。循環器内科不整脈部門部長の四倉昭彦医師はこう話す。

「とくに心房細動の患者さんは増えています。心房細動は適切な治療が実施される限り、生命に影響を与えることはありません。しかし、発作が起こると日常生活が送れなくなり、そのつらさを周囲にわかってもらえず、苦しんでいる患者さんも多いのです」

患者の症状を精査し、発作の度合いを把握して、適切な治療にあたることが大切だと四倉医師は話す。

同院は、カテーテルにより心臓の中でエコー（超音波）で撮った画像と、CT（コンピューター断層撮影）の画像を重ね合わせて、心筋を焼灼する範囲を特定する方式の「カルトサウンドシステム」を導入している。解剖学的に考えても確実で、効率のいい治療を実施している。そのほかにも、フットケア、禁煙などの専門外来を開設する北光記念クリニックを隣に併設。札幌および北海道の心疾患医療に貢献している。

北海道および東北地方は主要都市から離れた地域においては、医療態勢が手薄だ。心疾患の場合、緊急の対応が重要であるため、主要病院との連携や地域医療の充実が急務だ。

ライター・伊波達也

北光記念病院
循環器内科不整脈部門部長
四倉昭彦医師